



カウンセラーだより

たじま絆保育園 2019.1月号

保護者の皆さま、あけましておめでとうございます。年末年始、少しはゆっくり、楽しいひと時を過ごせましたでしょうか？昨年度も大変お世話になりました。今年度も引き続き宜しくお願ひ申し上げます。

さて、新年1発目のお便りは、園長先生よりお題を頂きました親子の愛着を素材として、そこにパーソナリティ理論をブレンドしてみました。興味深く読んで頂けましたら幸いです。

2019
HAPPY NEW YEAR

旧年中は大変お世話になりました。
本年もよろしくお願ひいたします。



タイプ1 (回避型)

1. 子どもの場合

ものおじしやすいタイプ。周りの人や環境の変化に敏感。行動や表現を抑える事で自らを守る。いわゆる恥ずかしがり屋さん。自信がないとも言えるが、先が分かるからこそ、不安になりやすい。親や人との交流を避ける傾向がある。何を考えているのか分からない、言わないから何でも大丈夫、と誤解を受けやすい。でも、人と関わりたい気持ちや表現欲求は内にある。

2. 親の場合

こどもの場合と同じく、控えめ。子どもや人との交流は少ない。でも、愛着がない訳ではない。内側では人との交流を望んでいる。でも勇気が持てない。こどもがやんちゃなタイプだと周りに頭を下げながら、子どもを追いかけていき、小さな声で「ダメよ」と子どもにささやくぐらい。行動や表現を抑える事で、その場をやり過ごす。とても従順で、人の意見が聴ける。控えめながら変わる努力をしていくタイプ。ある研究では全体の20%ぐらいの人が当てはまる、と言われているが、日本人の割合としてはもう少し多いかも知れない。

3. 回避型の親子

気質(生まれ持った性格)もありますが、いうまでもなく、子どもは親(特に同性)をモデリング(物まね、見本に)します。ですから、親の関りが薄ければ、当然、こどもの反応・表現も薄くなります。恥ずかしがり屋でも、一人が好きでも良いのですが、日本は集団・協調の文化ですから、やや回避型の人にとっては生きにくい世の中かも知れません。ただ、大事な点としては、自信がないだけで(人からどう見られているかに敏感なだけで)、本音は人と関わりたいという欲求・願望がある事です。ですから、親はだいたい自分の人生を振り返って、「自分と同じような道は歩ませたくない」と「いろいろな経験や人との交流をさせた方が良いのか」「もう少し厳しく育てた方が良いのだろうか」と考えている事が少なくありません。無理に人と関わる必要はありませんが、危険は回避するに越した事はないものの、恥ずかしくても恥ずかしい事をそのまま表現しながら人と会話をしていく事です(恥ずかしがり屋さんが思っているより日本において恥ずかしがり屋さんは重宝されます)。それには、親子から楽しく一緒に関わる事こそが、こどもの開かれた態度へ通じていきます。その方が、その後の人生(人間関係)も円滑に運び、幸せを実感できる事も多くなって行くのではないのでしょうか。

2月のお知らせ

- ・ 原則として、水曜09時～18時に出勤予定です。



2月号は園長先生から「親の関わりによる子どもの育ち方(中編)」についてオーダーが出ています！ぜひ、ご覧ください！